

5. 調査結果のまとめ

民間産業廃棄物焼却施設において、バグフィルターが設置されていない焼却炉稼働しなくなった平成12年4月1日（土）から平成13年4月1日（土）までの1年間の調査結果をとりまとめると次のとおりである。

(1) 3地点におけるダイオキシン類濃度

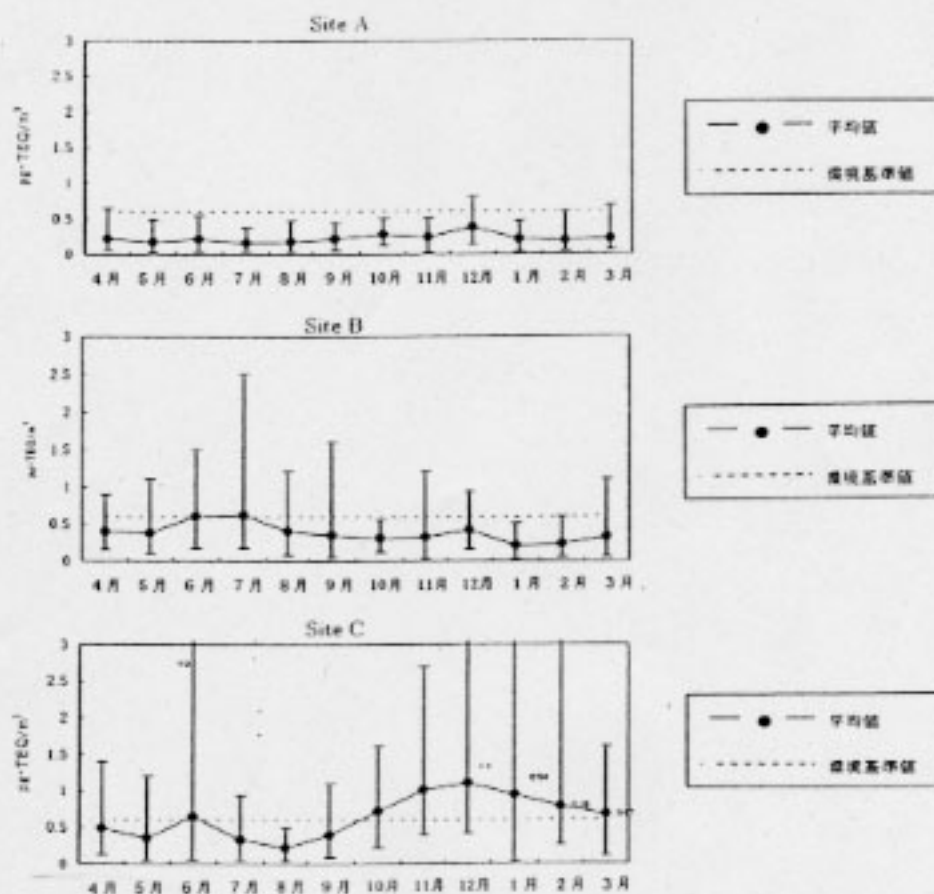
① 年平均ダイオキシン類濃度

ダイオキシン類の大気環境基準は年平均値が $0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 以下とされている。A地点及びB地点における年平均値は、4. 調査結果（表-1）に示すとおり、それぞれ $0.22\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 、 $0.38\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ であり、両地点は環境基準に適合していた。一方、C地点については、工業専用地域のため環境基準そのものは適用されないが、同地点における年平均値は $0.63\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ であり、環境基準値を上回った。

② 月平均ダイオキシン類濃度

全調査期間を通じてA地点は比較的低濃度であった。B地点は6月、7月に濃度が上がり7月には環境基準値を上回るが、その後徐々に濃度は下がり1月に最低となった。また、C地点は4月から9月の間は6月を除いて環境基準値より低い濃度の傾向を示していたが、10月から3月の間は環境基準値を上回った。

(図-1 3地点における月平均ダイオキシン類濃度)

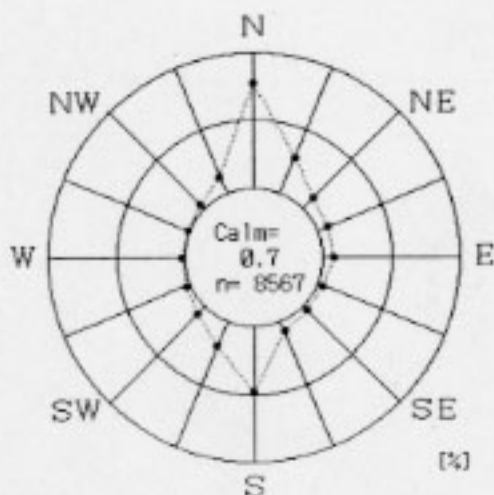


(2) 風とダイオキシン類濃度との関係

① 年間の風配

当調査地域は、北と南を中心とする対象的な風が卓越する地域である。

(図-2 年間風配図)



5月～8月は南系風が優勢で7月は南風が45%に達していたが、9月に入ると北系風が40%近くを占め、南系風より幾分優勢になった。10月～1月には北系風がほとんどを占めていたが、3月になると南系風が再び増え始めていた。

(表-2)

	北系風と時間割合		南系風と時間割合	
4月	N 25%	NNW 9%	S 24%	SSW 9%
5月	N 19%	NNE 7%	S 33%	SSW 10%
6月	N 22%	NNE 8%	S 37%	SSW 8%
7月	N 13%		S 45%	SSW 16%
8月	N 13%		S 37%	SSW 13%
9月	N 29%	NNE 8%	S 20%	SSW 8%
10月	N 49%	NNE 15%		—
11月	N 53%	NNE 20%		—
12月	N 41%	NNE 15%	S 5%	
1月	N 43%	NNE 15%	SW 6%	
2月	N 37%	NNE 19%	S 7%	SSW 5%
3月	N 31%	NNE 13%	S 12%	SSW 10%

② 影響風下の時間数とダイオキシン類濃度

A、B、C 3地点それぞれについて、焼却施設の風下となり得る「影響風下」の時間とダイオキシン類濃度との関係をグラフ化すると次のようになる。

いずれの地点でも影響風の頻度が増えるに従い、平均濃度が上昇する傾向が見られるとともに、影響風下の時間割合が0時間を除くどの時間割合の区分においても、民間廃棄物焼却施設に最も近いC地点で最も高濃度となっていた。

(図-3 ダイオキシン類濃度と影響風下時間割合)

